２０２２年１２月

MITOMI FUKUSIKAI

三富福祉会通信

Vol.16

（社福）三富福祉会
広報部　発行

山梨市三富川浦 2203
☎0553-39-2714
https://www.mitomi-fukushikai.com

特集：ハロハロ二番館～地域生活を支える～

■法人研修部について

■職員グループトークコーナー

■食事に関するｅｔｃ．

１２
２０２２

２０２２年１２月

平成 13 年度に立ち上がったハロハロ二番館（当時はファミリーサポートハロハロ）。以降 20 年以上に渡り、障害をお持ちの方々の地域生活を支えています。今回はハロハロ二番館の事業についてあらためてご紹介したいと思います。

特集✿ハロハロ二番館の活動について

“ファミリーサポートハロハロ”・・・ハロハロ二番館はそんな名前で平成１３年にスタートしました、名前に使われている“ハロハロ”はタガログ語の“ごちゃまぜ”という言葉に由来しています、障害の種別や程度、年齢などごちゃまぜで生活しているのが社会だと思います、だれもが障害の種別や年齢に関わらず地域で生活し続けてゆく事。施設に入所している利用者が将来地域で暮らすためのサービスを提供する事。これらを事業の目的としてハロハロ二番館はスタートしました。

現在、ハロハロ二番館の提供するサービスは身体介護・家事援助・重度訪問介護・行動援護・同行援護・日中一時支援・移動支援・短期入所の各サービスを提供しています。多くの類型のサービスを提供していますが地域でのニーズに応えるには多くのサービスの種類が必要になります。自宅に伺っての入浴、通院の同行、リハビリ。学校や事業所が終わって家族が帰宅するまでの預かり、体力や身体機能の維持向上を目的とした散歩、講演会や研修会への同行、趣味の活動など様々で、冠婚葬祭の時や緊急時の対応なども行っています。

二番館のサービスはグループホームの利用者も利用する事が出来ます、ご存知のとおり三富福祉会でも新たにグループホームを新設し、今後も新たなグループホームを開設していきます。ハロハロ二番館は現在グループホームの支援を行っていますが人員の不足により充分に提供出来ていないのが実情です、ハロハロ二番館にとって人員の不足は慢性疾患となっていて開設以来常に人員の不足に悩まされています。これは大きな課題です、解決すべき問題です。

グループホームで生活する利用者にとって余暇の時間をどう過ごすか？ということは非常に大きな課題です。余暇をどう過ごすか？ということがグループホームでの生活の全てではありませんが、グループホームでの生活の満足度につながり、グループホームで生活していることを実感できることにつながるのだと思います。

今まで思うように出来なかった地域のイベントへの参加や、ちょっとした買い物、外食など余暇を充実させることが出来ます、さらに、余暇に何をするか？どこに行くか？というような事に思考は集まりがちですが、誰と過ごすか？という事も大事だと思います、日中活動やグループホームの職員とは別の職員が対応する事になりますので、新たな人間関係が生まれる事になり、より豊かな生活が送れるのではないでしょうか。

ハロハロ二番館の事業は生活の中では決して中心になる事業ではありませんが、法人理念の「その人らしく生きる事を支援する」を是とし、ハロハロ二番館として出来る事を提供し続けていきたいと思っています。

ハロハロ二番館
管理者　齊藤　　実

２０２２年１２月

ハロハロ二番館では、障害をお持ちの方の地域生活を支えるためにさまざまなサービスを提供しています。ここでは、いくつかのサービスを実際の利用例に基づいて紹介したいと思います。

居宅介護

グループホームにお住いの方、一人暮らしの方、家族とお住いの方に、食事、入浴、排泄、掃除、洗濯、調理など生活全般にわたる支援を提供しています。

Ａさんの入浴介助　ご家族と同居されているＡさんの自宅に伺って入浴介助を行います。全身を介助する方もいらっしゃれば、部分的な介助を行う方もいます。入浴介助に伴うバイタルチェックや入浴後の塗り薬の塗布などもしています。

重度訪問介護

介護の必要性が非常に高い方に対して、自宅で入浴、排泄、食事の介助、外出時の移動支援などを総合的に行います。

Ｂさんの一人暮らしを支える　Ｂさんはご自身で身体を動かすことが困難な障害をお持ちの一人暮らしをしている方です。二番館ではＢさんの自宅に伺い、経管栄養、喀痰吸引、排泄介助（オムツ交換）などを行なっています。重度訪問介護のサービスには外出時における移動中の介護もあります。リハビリへの付き添いもしています。２４時間３６５日の支援が必要な方の暮らしを支えるため、二番館だけでは全部のサービス提供が出来ません。地域の事業所とも連携しながらこの方の「一人暮らしをしたい」という希望を支えています。

地域生活支援事業

地域で自立した日常生活が送れるよう、移動支援や社会参加に向けた支援を行います。

Ｃさんのグループホームでの余暇を支える　地域生活支援事業の中に移動支援があります。グループホームに入所をされているＥさんは買い物支援を受けています。Ｅさんは日常生活に必要なシャンプーや洗剤や衣類、休日に食べるお菓子やカップラーメン、コーヒーなどの買い物をしています。買い物先で目当てのものを一緒に探したり、種類が多い物は説明したり、食料品を選ぶ時は「これが美味しい」「あれは食べたことない」など楽しく話しながら支援をしています。

行動援護

行動障害をお持ちの方に対して、危険を回避するために必要な支援や外出支援を行います。

Ｄさんたちの地域生活を支える　健康維持の為に散歩をしたり、コロナ前はプールにも行き水中ウォーキングなどもしていました。その他、行動面に関連した利用者様の危険回避、排泄や食事の介助、予防的対応、制御的対応などの支援を行っています。行動援護は強度行動障害支援者養成研修を受けたスタッフが支援をしているので専門性の高い支援を受けることが出来ます。

その他にも緊急時の対応や短期入所なども実施しています。
皆様の地域生活がより良いものとなりますように、これからも日々の支援に励んでいきます。

ハロハロ二番館　青山　将

三富福祉会理事長
山西　孝

理事長より

紅葉最前線

今年の山々の紅葉は季節通りに進み色づきました。好天が続いたおかげで万遍なくどの種類の木も色づきました。ただ残念なことに白樺園から見通せる山々は黄色い葉が茶色っぽくて美しさに欠けています。

10 月の末に乗鞍高原のエコーライン三本滝ゲートまで行ってきました。さすがに、ここまで登ると見事な紅葉でした。50 年ほど前に自家用車で頂上直下の畳平まで登ったのは乗鞍スカイラインの方であったと思い出しました。

行く途中、島々から 3 つのダムに沿って走る国道 158 号線は大好きな道の一つです。右に左にカーブを走るリズムが制限速度でも楽しいのです。しかし今回はリズムに乗れないのです。70 歳を過ぎて運転技術が低下してしまったのでしょうか。前回の車はゴルフⅥで今回はマツダ CX5 なので車が軽快ではなくなったと一人納得しています。次回はゴルフⅧR で再挑戦しようと思っています。

さて（隠し）本題ですが、当法人の入所施設でクラスターとなってしまい 3 週間ほど機能不全となってしまいました。幸い重症者もなく感染区域を解除することが出来ました。感染対策には十分気を付けていたのですが短期入所者の方が陽性となってしまいました。

ワクチンを 4 回接種していても 2 次感染者を 12 名出してしまいました。ワクチンの効果が無いのか、重症者が出なかったのはワクチンの効果なのかは不明です。

国の基本的なコロナ対策は正しいのか疑問に思います。クラスターになって 1 番困ったことは職員が感染してしまうと 7 日から 10 日間勤務が出来なくなってしまうことです。そのため職員のやりくりが出来なくなり他事業所から応援職員として派遣せざるを得ませんでした。重症化のリスクは少なくなっているわけだからインフルエンザ並みに緩和してほしいです。

感染対策物資は山梨県（国の補助？）から防護服等を十分な量を頂いたので困ることは有りませんでした。保健所の対応については正直なところ満足はしていません。これは医療機関の問題ですが、障害者は入院できない事がはっきりしていて、施設内療養が前提となっています。いざとなったら救急車を呼べと言われた時には絶望するしかありませんでした。山梨県フォローアップセンターに陽性者登録をするように言われましたが、意味が無いのでお断りしました。

また、介護保険の事業者には施設内療養者 1 名につき 15 万円の補助が出るようですが、なぜか障害者施設には同様の補助が無いのです。山梨県だけなのでしょうか。

現在のコロナ対策が感染者数を増やさないことに重点を置いているようですが、軽症者や無症状者が多くを占める感染者数を把握することに意味があるのでしょうか。政策の転換を望みます。感染症法上の扱いをⅡ類からⅤ類に変更することをお願いします。

三富福祉会では各事業所から代表の支援者が集まり、１３名体制で法人研修部を構成しています。
法人の支援者が一人で悩みを抱え込まず、仲間と助け合いながら支援の質が向上できるよう、現場支援者からの声を聞きながら年間で研修を組んでいます。

三富福祉会法人研修体制について

法人研修部担当　吉村　純

法人研修部は平成 24 年に立ち上がりました。法人理念にある、『その人らしく生きることを支援する』を実現するため【目指す職員像】にて掲げる人材を育成するべく、必要となる知識・技術・技能・態度などを習得していくことを目的にしています。

【法人が目指す職員像】
① 自分が所属する組織と、自分の仕事に熱意を持って、自発的に貢献しようとする職員
② 給与規定に定められたキャリアパスに沿って研鑽する職員
③ 幹部候補養成のため法人内のすべての事業を把握できる職員となる。そのために定期的な事業所間の人事異動に対応できる職員

年に 3 回ほど法人職員全体で集まり、法人の長期計画実現のため、今後に必要となる内容をテーマとして全職員参加型ワークショップ形式の研修を開催（通称「第５金曜特別枠」)、その他障害者(児)支援に必要な、知識や技術の習得、メンタルヘルスやチーム力の形成など、人材育成に必要となるさまざまな内容をテーマに法人内講師や外部講師などによる研修の開催（選択研修)、障害福祉制度や地域の社会資源、支援の基本姿勢など、法人職員の中で勉強したい、学んでいきたいという有志を募り、小グループ単位で運営していく勉強会（ボトムアップ形式の勉強会)、その他、リーダー職員向け研修、新人職員研修を実施しています。

これらの企画運営を法人の若手職員を中心として研修部で実施し、現場支援者がどういった学びを深めたいか、どういった知識・技術が必要かを毎月話し合い、ボトムアップ方式で研修が開催されるよう日々努めています。

近年はコロナ禍により、集合して研修するスタイルが維持できなくなっています。法人職員の交流の場でもあったため、非常に残念ではありますが、ICT 機器を使いながら各事業所と繋がって全体研修を実施したり、各事業所の紹介動画を作成して事業の様子を伝えあったり、配信されている学習有料動画を閲覧したり、工夫しながら法人全体の支援力が向上するよう今後も働きかけていきたいと思います。

服部所長の！あれこれ大事な話

【障害者権利条約に真摯に向き合う】

障害者権利条約第 34 条では、「障害者の権利に関する委員会」について決めています。「障害者の権利に関する委員会」の委員は、条約を締結した国の中から 18 人が選ばれ、第 35 条では、条約がどのように実施されているかについて、国が「障害者の権利に関する委員会」に報告しなければならない事、また、「障害者の権利に関する委員会」が国からの報告の内容をくわしく調べる事も決めています。

今年の 8 月 22 日、23 日にスイスのジュネーブで障害者権利委員会と日本政府との建設的対話が行われ、総括初見も 9 月 9 日に公開されました。

≪総括所見の主な指摘事項≫

医療保護入院や措置入院等強制入院が存在している事　精神科病院内での不適切な扱いに対する救済措置が不十分な事、入所施設に住んでいる方々の地域生活移行が実現できていない事、旧優生保護法のもとで優生手術を受けた方々への救済が不十分な事、特別支援学校に障害児が集められ、インクルーシブ教育が実現できていない事等々…

障害者権利条約に真摯に向き合い、指摘された事項を真摯に受け止め、私達に出来る事、すべきことを自分の中で整理して置く事が、私達福祉職の背骨となると考えます！　忍

白樺祭について語ってみました

ＦＲＯＭ白樺祭実行委員

コロナ禍に入ってから二年間開催できなかった白樺祭ですが、今年は規模を縮小して開催できました。今回は実行委員の話をうかがいました。

◎コロナ禍での開催でしたね。気を配った点はありますか？

清水「白樺園入所者だけでなく、グループホームの方も参加してくださったので、まずは密にならないように席を用意しました。」

望月「ブルーシートも用意し、できるだけ会場を広く使用して、距離が取れるようにしました。」

◎当日の様子を教えてください。

望月「グラウンドだけでなく、体育館も会場にしました。スクリーンを用意し、グラウンドの様子を中継できるようにしたのでお祭りのライブ感を楽しんでいただけたかと思います。」

深沢「今年はキッチンカーに来てもらったので、視覚的にもお祭り気分を楽しんでもらえたのではないかと思います。」

清水「花火は打ち上げではなく、置き型花火に変更し、間近で見られるように配置しました。ちょうど車椅子の方々の目線の高さになり、見やすかったと言っていただけました。来年以降もその時の情勢に合う開催方法を追求しながら、皆さんの思い出に残る白樺祭を企画していきたいです。」

食事支援に関する etc.

白樺園

今まで白樺園の食事は給食会社に委託していましたが、
この４月より白樺園から提供していく事となりました。

今年度より、食事提供を白樺園厨房から行うこととなり、旬の食材（うなぎ・海鮮・イチゴ・メロン等）を多く取り入れることができるようになりました。見た目も豪華になることで利用者さんにとって給食が楽しみの１つになっていると感じています。白樺園職員と白樺園厨房職員でのコミュニケーションが増えたことで、今まで以上に利用者さんの食事について考える事が出来るようになりました。

こちらは秋の味覚
さつま芋ご飯です。

この日のメニューはお魚キタイさんの新鮮な海鮮丼です。
ソフト食の方にも海鮮の味を楽しめるように愛情込めて作りました。

グループホーム

食事のご様子（IN ハナミズキホーム）

グループホームでは家庭的な雰囲気の食事提供を目指すと共に、栄養士と看護師管理の元、塩分やカロリーなど健康面に配慮した食事も提供しています。

この日の献立
- 肉団子のケチャップ炒め
- ピリ辛こんにゃく
- 春雨サラダ
- 里芋と厚揚げの味噌汁

メニュー

キッチンの
様子

人材開拓 project

管理部長（採用担当）
佐野　毅

新卒採用の就職戦線も年度の後半を過ぎました。R5 年度採用（新卒）は、すでに数名の有望な学生に採用内定を通知しました。しかし年度当初の採用目標数には未だ達していない為、秋から追加募集を行っております。例年この時期になりますと、第一希望の企業から採用内定がもらえなかった学生が、就職浪人のリスクを回避するために進路変更をして他業種の企業の就活に切り替えてくる時期でもあります。この時期まで就活に奔走する学生の中には、本人も気付かないような優れた才能を秘めている学生に出会うことが度々あります。

福祉を専門的に学んでいなくても、利用者さんの行動をつぶさに観察して「利用者さんの声なき声を聴き取ろう」と真摯な態度で利用者さんに向き合うことができる学生さんもいます。

（合同就職説明会／アイメッセ）の様子（R４年 10 月）

この時期は、そんな学生さんと出会うことができるチャンスでもあります。三富福祉会では、採用応募受付の門戸を広く開放しておりますが、「待ちの採用」だけではなく「攻めの採用戦略」として多方面の採用活動にも積極的に取り組んでいます。私たちと志を共にしてくれる素敵な学生さんを獲得するべく年度後半も採用活動を積極的に進めてまいります。

★採用受付　【電話】　０５５３　３４　０２

＜支援スタッフ募集中！＞

・ホームヘルパー（又は介護福祉士）
時給 1,100 円～
（勤務地・山梨市東後屋敷）　勤務時間・応相談

・生活支援スタッフ（パート）　時給 1,100 円～
（勤務地・山梨市小原東、七日市場、甲州市塩山藤木のいずれか）　時間: 8;30～17:30（土日祝（休み））

・グループホーム支援スタッフ（パート）　時給 1,100 円～
（勤務地・山梨市小原西、下神内川、甲州市塩

☆表紙作品紹介☆
日中活動支援部アート活動

あっという間に秋も過ぎ去り、寒さが深まる中でこの作品は生まれました。マスキングテープを貼る方と、文字を書く方、それぞれの方の持ち味が生かされた作品となっております。冬の風物詩であるこたつとミカン、そしてそこに添えられる繊細な白い文字。この二つが織りなすコントラストは、物寂しい冬の到来にほっこりとした気持ちを皆様の心に添えられるのではないでしょうか。

【ハロハロ一番館　丸山】

編集後記

三富福祉会通信　Vol１６！！

今回はハロハロ二番館について特集させていただきました。二番館が平成 13 年に立ち上がった頃からご協力いただいている方もいらっしゃると思います。地域にお住いの方、白樺園から地域移行してグループホームにお住いになった方など、これからも多くの方の「その人らしい暮らし」を支えていけたらと思います。

コロナ禍となって 3 年目となります。マスクや消毒が欠かせない生活となり、以前の暮らしが懐かしくも感じます。コロナ禍で多くの変化が訪れました。特に外出支援は、ちょっとした買い物も人がいない時間帯にしたり、好きな場所よりも換気の良い場所を選んだりなど…。変化はいろいろありますが、利用者様には「いい日だったなあ。また出かけたいなあ」と一日の終わりに思い出していただけるような支援を心がけていきたいと思います。

広報部委員：吾妻、日原、古屋、青山、志村、渡邊、朝倉